

福祉について

vol. 1



◆ 人が人を支える

「なにか人の役に立ちたい」「人と関わる仕事がしたい」

福祉の仕事を希望する方は、この仕事に人間的な魅力を感じているようです。人が人を支える仕事は、心の温かさ、やさしさが直接相手に伝わります。しあわせな気持ちがお互いに通いあったとき、この仕事の魅力が感じられるのではないのでしょうか。

一人ひとりの個性や尊厳、未来を考えると同時に、自分自身を振り返り、高めることにもつながっていきます。

◆ 社会福祉とは

日本国憲法には次のような条文があります。

「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」（第二十五条）

社会福祉の意味については諸説ありますが、憲法で規定されているこの考え方が基本となるものです。

だれもが身体的、精神的にどのような状況にあるうとも、ひとりの人間として尊重され、ごく普通に当たり前の生活を送れるような社会を作っていくことが社会福祉の基本的な考え方であると思われま

す。あくまでも“人間の生活”に焦点をあてたものであり、その根底には“いかにして人間は存在すべきか”という普遍的な考え方があるのです。

慈善事業的な側面や過去の社会事業的な古い福祉観にとらわれない、利用者とサービス提供者の対等な立場での福祉サービスのあり方が今後の社会福祉の基本的な考え方にもなってきています。



◆ 自分自身を高めてくれます

人々の老いを支える、子どもたちの成長を見守る、障害者の日常生活を広げる、家庭での自立した生活を支える。このように福祉の仕事は人々の生活や将来を見つめる仕事です。

生きることの厳しさや楽しさ、家庭のありかたや自立への課題など一人ひとりの個性や尊厳、未来を考える仕事です。このことは、また自分自身を振り返り、高めることにもつながります。仕事を通じて自分自身の成長と高い満足を得られる仕事でもあるのです。

◆ どんどん仲間が増えていきます

社会福祉の職場ではたくさんの人々が働いています。利用者がより快適に生活できるよう、一人ひとりを大切にサービスを担っています。福祉の職場や職種は様々ですが、同じ目的をもって仕事をしている仲間としてお互いに連携して業務にあたっています。

県内で福祉施設や福祉機関・団体に勤めている職員はおよそ15,000人（平成19年度計）にのぼり、全国では約328万人（平成17年度 総務省労働力調査）の仲間が働いています。これからも福祉の制度やサービスは拡充されますので、福祉の従事する職員も大幅に増えるものと思われます。

◆ 励ましあって、あなたも大きく成長します

福祉の職場は対人サービスが中心になりますから、利用者への思いやりや配慮が必要です。職員の資質を高めるため職場の内外での研修の機会もありますが、同じ職種や職員で勉強したり励ましあうと活力も沸いてきます。

そこで、職場をこえて同じ職種の職員などで会をつくり交流や研修、親睦を図っている団体もあります。

●県内の主な福祉従事者の団体（平成20年12月1日現在）

団体名	会員	主な構成員
群馬県福祉施設従事者会	153人	養護施設・知的障害者施設などの職員
群馬県ホームヘルパー協議会	515人	訪問介護員
群馬県内社協職員連絡協議会	300人	県内社会福祉協議会職員
群馬県介護支援専門員連絡協議会	1,330人	県内介護支援専門員
群馬県介護福祉士会	650人	県内介護福祉士
群馬県社会福祉士会	477人	県内社会福祉士
群馬県精神保健福祉士会	124人	県内精神保健福祉士

◆ 福祉の求める人材は

- ①特別な資格、履歴よりトータルなイメージを重視
バランス：人間としてバランスがいい。偏りがみられない。
豊かな人間性や感性を日頃から磨いておくことが必要
- ②書く、話す、聞く能力を持っているか
《書く》：自分の思いを客観化させる力、表現力
《話す》：自分の持っているメッセージを相手にしっかり伝える力
《聞く》：相手のサインを読みとる
- ③意欲は
能力の差は仕方ないが、“意欲”に差があってはならない。
- ④“雑事”の重要性を認識しているか？
“雑事”が利用者にとってみればものすごく大切なものという見方が必要。
- ⑤専門的な力量は？
学校等で学んだことをいかに理解し、自分の物にしているか
- ⑥組織の一員としてやっていけるか？
個人的な判断で仕事をやってはいけない。
みんなの“しじ”（指示・支持）を得て仕事をしていく。

